

映像学科支部は、コロナ禍でも沢山のOBが連携し、協力がとれた1年でした。

大阪芸術大学 映像学科支部長 広瀬 まり

50周年記念同窓会を始め、総会も貢献活動も安全を重視し延期しております。その中で校友会及びOBも協力しました産学共同映画『虹の彼方のラブソディ』が完成しました。キャストとして華を添えてくれました演奏学科客員教授の木根尚登先生、マーク・パンサー先生より芸大映画初参加のコメントを寄せて頂きました。多忙なスケジュールの中、有難うございました。その世代は大喜びでした♪

木根尚登 (TM NETWORK) 演奏学科客員教授より

2020年制作の映画『虹の彼方のラブソディ』にゲスト出演させて頂きました。撮影のこの日は、本当に驚きと感動の一日でした。共演者で本学の教授でもある森川美穂さんとは、何十年かぶりの再開でした。ご一緒出来て嬉しかったです。それと、なんと大森一樹監督に演技指導して頂いた事は、僕の一生涯の思い出になりました。その監督のもと、キャストもスタッフも全て学生さん。撮る方も撮られる方も、プロ顔負けの演技と技術でした。撮影時の緊張感と、皆さんの真剣な表情は、今も忘れられません。太陽のいない寒い冬の日でした。でも、その日は一日暖かい気持ちでいられました。今、僕は、卒業生の皆さんの未来が楽しみです。新しい時代が来ます。固定概念や先入観は捨てて、人生というドラマのどんな役が来ても、自分と未来を信じて、何があっても一日楽しく朗らかに、周りを気にせずに、ただ一歩ずつ前だけを見てゆっくり歩いて行ってください。僕も遠くから応援しています。



撮影休憩中の木根尚登先生

マーク・パンサー (globe) 演奏学科客員教授より



マーク先生、オープンキャンパス講座

行きつけのバーで一杯飲んでいたらある夜、事務所の社長から電話が入り“映画に出てみないか？”と聞かれ、すぐに断ったのを覚えている。理由は簡単だ。僕は音楽の世界で生きていて、映画の世界は子供の頃に捨てていたからだ。しかし、次の日に社長は台本をもってきた。ゆっくりと読んでみると、僕の出番はほとんど無い。どんな役かという、僕自身「マーク・パンサー」が、夢見る生徒にチャンスにあたえる、そんなプロデューサーみたいな役だった。台本を読んでいくにつれて、自分の役なんてどうでもよくなった。この映画のストーリーに引き込まれていった。学生たちの間に巻き起こる、友情、恋愛、それだけではなく、未来へと向かいながら、努力や挫折、若い時にしか経験できない、いろいろな事が絡み、頑張る若者。そんなストーリーは台本の中だけではなく、実際の撮影現場でもプロに混じって芸大の生徒達が汗を流し映画を実際に作っていくとの事だった！映画と現実がきつと交差するそんな瞬間も生まれるんだろうなと思った。台本を読み終わり、僕は目の前でニヤニヤしていた社長に是非出演させて欲しいと伝えた。夢は寝ながら見るものだ。しかしそんな夢はただの夢。忘れてしまうし、実現することもないだろう。目を覚まして見る夢こそが大切な夢だと思う。そんな実現可能でっかい夢をたっぷりと見れるのが大学だ！そんな夢を映画にしてくれて本当にありがとう！これから卒業していくみんな、自信をもっていろんな壁を乗り越えて行って欲しい！がんばれ！未来のスーパースター達よ!!!

※なかなか思うような動きがとれない年でしたが、沢山のOBが各自の経験とネットワークで協力した1年だったと感じます。来年度からは新たな体制で校友会員の皆様と支部会を作っていきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

記念同窓会はコロナウィルス感染収束後、開催を決定します。メール及びホームページで連絡いたします。支部会、同窓会は全OB.OGの皆様と共に楽しく作っていきたく思っております。

<https://v-dousoukai-oua.jimdofree.com/>
 e-mail:v-dousou@osaka-geidai.ac.jp
 〒585-8555 大阪府南河内郡河南町東山469
 大阪芸術大学映像学科研究室内 映像学科支部会
 担当:近藤



①



②



③

①② 産学映画撮影中/山本氏 (v9) 撮影
 ③「あの日のキャンパス」1980年0号館前/柴田氏 (v9) 撮影